

札幌くらぶ

Sakkyo Club

53



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
メール: info@sakkyoclub.net
ホームページ: http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/

2011.1

第9回札幌くらぶコンサート検討経過報告(第2回)

「札幌と遊ぼう」のプログラムが決定しました

第9回目になる札幌くらぶコンサートは、平成23年11月5日(土)に開催することが決定し、指揮は我らのマエストロ尾高さんをお願いしました。現在、札幌くらぶコンサート検討会議から答申を終え、実行委員会を正式に発足させ、具体的な開催内容や会員の皆さんとともにどのように進めていくか議論をしている最中です。前号に引き続き第2回目はプログラムについてご紹介し

■第1部

会長と尾高さんのプレトークが面白い?

第1部は、会長とマエストロ尾高さんによるプレトークから始まります。どんなお話になるやら、実行委員もわかりません! きつと楽しく、めったに聴けないお話の山になると期待しています。そして、ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲で演奏会が始まり、いよいよ本日のメインプログラムメンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲Op. 64(ホ短調)が演奏されます。そしてその余韻を楽しんでいただき、拍手は余韻が冷めてからです!

■第2部

指揮者に挑戦する曲はブラームスのハンガリー舞曲5番

「挑戦希望者は事前に練習を!」第2部は、シベリウス/交響詩「フィンランディア」Op. 26の後、「札幌と遊ぼう」指揮者に「挑戦」のコーナーとなります。曲は、ブラームス/ハンガリー舞曲

5番です。ご存知の方が多いと思いますが、挑戦を希望する方は演奏曲をあらかじめ練習してきてもらうこととしました。これはマエストロ尾高さん希望でもあります。当日会場にて手を上げていただくことにします。時間の関係を考えて3人程度を予定します。札幌を指揮するなんて「夢の夢」と思いますが、札幌くらぶコンサートでは指揮者や札幌の協力を得て実現しています。そして最後は、ヴェルディー/アイダから凱旋行進曲でしめます。この演奏には札幌の学生がオーケストラに加わる可能性があります。そうなることを札幌ワーグナー・シヨップが期せずして本物の演奏会で実現することになります。将来の演奏家を目指す学生にとつてまたないチャンスとなるでしょう。最後にアンコールはあるかって? 答えは「?」です。当日の皆さんの期待によつてはアンコールがあるかもしれません。以上が第9回

札幌くらぶコンサートのプログラムです。札幌くらぶは札幌の中学生の200名くらいの招待をはじめ外国人留学生の招待をし、札幌の魅力伝えていきます。このコンサートは札幌くらぶ会員の皆さんの行動によつて実現できることです。また企業の皆さんにもご理解・ご協力をいただきたいことです。よろしくお願いたします。次号第3回では具体的に札幌くらぶ会員皆さんへご協力していただくことを特集します。札幌くらぶコンサート実行委員会 副委員長 西川 吉武(札幌くらぶ副会長)

第9回札幌くらぶコンサート「札幌と遊ぼう」のプログラムを紹介いたします。前号で紹介したように、プログラムは、検討会議で出された曲目を中心に上田会長とともにマエストロ尾高さんに相談し決定しました。このようにプログラムの選定も札幌くらぶの目的でもある、

メインのプログラムはメンデルスゾーン/ヴァイオリンコンチェルト

「コンサートマスターの一人がソリストで登場します」

今回のメインプログラムは、札幌のコンマスによる「メンデルスゾーン/ヴァイオリンコンチェルト」で札幌のよさを満喫したいと提案した結果、ソリストは札幌コンマスで実現します。しかし独奏者はまだ内緒です! 次号で明らか



第2回札幌くらぶコンサート(200.4.15)での指揮者に挑戦する小学生

札幌と私の50年

札幌くらぶ会長 上田 文雄

今年、私たちが愛する札幌交響楽団が創立して50年という記念の年である。多くの札幌市民がそして北海道民が「札幌」という言葉の響きに、文化を感じ芸術を連想することができるようになった半世紀。私たちが生き

る豊かさを語る上で札幌が欠くことができない存在となった歴史である。一人ひとりの人生を振り返るとき、きっと札幌との出会いが特別なものとして、あるに違いない。



上田札幌くらぶ会長（札幌くらぶ10周年記念誌より引用）

私が初めて札幌を聴いたのは、1962年9月帯広市民会館のこけら落とし公演だ。中学2年生の9月のことだ。札幌が誕生して2年目、まだ「札幌市民交響楽団」という名前だった。生れて初めてのオーケストラの音を聴いた。第1曲モーツァルト「アイネ・クライネ・」第2曲ベートーベン3番「英雄」無我夢中だった。興奮した。「札幌」は私の人生に、決定的な彩を与えることとなった。33年前、札幌で仕事を始め「札幌」と再会できた。厚生年金会館

・市民会館、そしてキタラへと。何度足を運んだことか。札幌が聴きたくて。キタラが完成する1年ほど前、1600余席の市民会館での定演に空席が目立つ状況が気になっていた。キタラ2008席を満席にしたい。音楽は満席のホールで聴くのが一番だ。演奏会は、演奏の質も重要だが、私にとつては、聴衆同士が感動を共有することが同程度に大切な要素である。多くの人がそう思っているだろう。根拠がある。想像してみた。客席には他に誰も居ない私たった一人のキタラ大ホールで「札幌」の演奏会が行われることを。たとえ「札幌」が好意で私のためだけに開いてくれた演奏会であつたとしても、私はその場には居たいとは思わない。そんなの、演奏会なんかじゃない。ボクはいつも思う。演奏前のチューニングとそれが終わった直後の静寂を。

あの瞬間、聴衆としてそこに居るものは何を感じているのだろう。あれはオケのチューニングだけではない。ホールにいる聴衆が音楽を共有する心のチューニングなのだ。静寂は音楽で感動を共有したいと願う、心の連帯だ。それが嬉しい。ライブは沢山の聴衆があつてこそ、楽しみが味わいが倍化する。だから、私にとつてキタラに、とりわけ愛する「札幌」の定演に空席があつてはならない。「札幌くらぶ」は、キタラ完成1年前、札幌のキタラでの定演を満席で聴きたい、満席にするがために創設された。想いを同じくする多くの仲間と、札幌のファンを増やし、札幌を応援する活動が始まった。「札幌くらぶコンサート」も今年11月に9回目を開くことになった。皆さんも札幌くらぶの会員になって、札幌と共に彩り豊かな人生を送りませんか。いつ

でも、歓迎します。9・11事件を乗り越えてヨーロッパ演奏旅行に出かけた札幌、あれから10年が経過し、今年5月には英国とドイツ・イタリアでその後の札幌の成果を発表する。創

クリスマスパーティーに参加して 嬉しい団員さんとの交流

今年も12月の定期公演の終了後のクリスマスパーティーに参加しました。総勢50人ほど、キタラの2階の大会議室はほぼ満員状態でした。大きなクリスマスツリーが飾られ、その横にはビンゴゲームの賞品がまた会場の3箇所のテーブルにはお寿司やお菓子、飲み物などが所狭しと並べられています。札幌からは西村専務理事さんをはじめ団員さんも含め7名の方が参加してくださいました。

私がこのクリスマスパーティーに参加するのは今回で3回目、春の総会の後の交流会も入れると5回目になります。3年前に札幌の定期会員になり、その時のプログラムで目にした「札幌くらぶ」の会員募集を読み、札幌を少しでも応援することができるのならと、すぐ入会を申し込みました。団員さんとの交流会があるというのも魅力の一つでした。いつもステージ上でしか見えない団員さんをお話できるなんて夢のようです。そして、ワクワクドキドキ

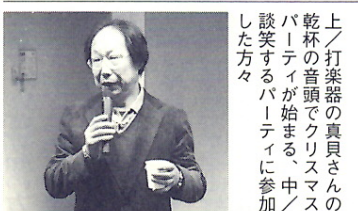
立50年を期して、札幌の大発展の時代が始まること、間違いない。最後に、「謹賀新年」今年も札幌と札幌くらぶをよろしくお願ひ申し上げます。

入ることになった経緯などを話してくださいました。また、サインや写真撮影、握手にも気軽に応じてくださいました。尾高さんや高関さんともお会いする事ができました。

さて、今年のクリスマスパーティーも和気藹々の中、あつという間に時間が過ぎてしまいました。団員さんたちは、恒例のビンゴゲームも一緒に楽しんでパーティーを盛り上げてくださいました。演奏が終わってお疲れの中参加してくださいました。ありがとうございます。

パーティーが終わって改めて思ったのは、微力だけれど、これからは札幌のためにできることを考えていこう、札幌の定期公演を満席にするために、たくさんの方に声をかけていこうということでした。そんな思いを抱きながら、キタラの会場を後に家路につきました。

(M・S)



上ノ打楽器の眞貝さんの乾杯の音頭でクリスマスパーティーが始まる、中ノ談笑するパーティーに参加した方々



下ノ賞品も沢山あり楽しんだビンゴゲーム

アフターコンサートパーティー

2010年10月16日 札幌パークホテル

大平まゆみさんがソロを弾いたのは第532回の定期演奏会。A日程とB日程の両方を聴きに来ている方のことを考えて衣装を交えるという気遣いを忘れない大平さん。大平さんのつめの垢を煎じて飲んだら、私も少しは気遣いのできる人になれるかしらん…などとそんなことを考えてしまいました。

その定期演奏会B日程終了後にアフターコンサートパーティーが開かれることを知ったのはギターファーストコンサートに参加した時。たまたま偶然手に取ったチラシを見て、もう予約で一杯だろうな…と思いつつパークホテルに電話をしたところまだ予約できると言う。早速予約し、B日程終了後にいそいそとパークホテルに出かけました。

大平さんは少し遅れていらっしやいましたが、たくさんのお客様をお見送りしていたとのこと。また指揮者のデリック・イノウエ氏も出席されました。大平さんが英語でデリック氏にインタビュをするという場面もありました。パーティー会場では大平さんのCD、カレンダーを購入した出席者にサインをしていただけの時間がありません。たちまち長蛇の列ができ、CDやカレンダーが飛ぶように売っていました。もちろん私



パーティーに参加した会員と大平さん、リリィさん

もカレンダーとCD両方を購入し、両方にサインしていただきました。カレンダーは部屋の一番目立つところに貼り、朝起きて最初に目につくのは大平さんという贅沢な朝を毎日迎えています。パーティーの間に我がが札響くらの事務局長はじめ色々な方の挨拶がありました。最後には大平さんの演奏がありました。しかも、一箇所演奏するのではなく、テーブルを回りながら演奏されていました。近くで

聞くと、弦と弓がこすれる音や、弦の振動が反響する音などが聞こえてきました。普通に演奏会に参加してもまず聞けない音が聞こえてきて、バイオリンって近くで聞くとこんな音もするんだ！と一つ賢くなった気がしました。パーティーが開きとなった帰り道、たまたま一緒になった札響くらぶの方にカレンダーがまだ売っ

小さなコンサート

12月の寒い夜、一軒の家に妙なヴァイオリンの音が流れていました。演奏は札響第一ヴァイオリンの河邊俊和さん、聴衆は18歳から81歳までの十数名。皆「こんな間近で一流の演奏を聴けるなんて夢みたい」と幸せそうな顔をして聴き入っています。

この家恒例の持ち寄りパーティーに「庶民の忘年会にお出で下さいませんか? ヴァイオリンだけお持ちになって」と河邊さんをお誘いしたら快く参加して下さいました。プログラムはモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」に始まり(四重奏なのに独奏ですよ)面白かったのはルロイ・アンダーソンの「トランペット吹きの子守歌と休日」。普通三

ていたと伝えると購入しにパークホテルに戻っていききました。後日話を聞くと、カレンダーを購入したらどこからともなく大平さんがいらっしやってサインをしてくださったとのことでした。料理も、大平さんの演奏も両方堪能できたパーティーでした。(華)

人で吹く曲を一挺で何の違和感もなく表現するとは畏れ入りました。河邊さんだから出来ることなの? それともヴァイオリニストなら誰でも出来るの? 音楽に無知な私は聴くたびに不思議です? アンコールの最後は「ラデツキー行進曲」。全員手拍子で盛り上がったところで、さあご馳走のテーブルへ、溢れるばかりのお料理とワイン等々、楽しい時はたちまち過ぎる、シャンパンの充分に込みこんだ河邊さんがおもむろに立ち上がり「G線上のアリア」を弾き、心に沁みわたる調べと美酒に酔い満ち足りて「素敵なパーティーをありがとう」と友人達は森閑とした街に散っていった。今年もあと僅かの夜は更けてゆく。

河邊さんには、毎年、夏に友人のアトリエでコンサートをして頂いています。とても優しく楽しんで下さいます。 (駿)

ゲネプロ見学会に参加して

僕は、2010年11月12日午後3時から札幌コンサートホール・キタラで行われた、札響定期演奏会のゲネプロ見学会に初めて参加させてもらった。ゲネプロというのは、本番と同じように総合的に練習することを意味するということだそうです。

今回のシベリウスの曲は、アンダンテ・フェスティヴォ、ヴァイオリン協奏曲、交響詩「4つの伝説曲」の3曲を尾高音楽監督の指揮で行われました。札響の皆さんは、尾高音楽監督のタクトにより繰り返し練習し、一生懸命頑張っている姿に僕は感動してしまいました。

札響くらぶのスタッフや参加者が聞いていましたが、ホール内は静かで、音響はとも響きがよく、本番を聴いているように感じました。僕は、特にヴァイオリン協奏曲が良かったと感じました。ヴァイオリンの高音とオーケストラの調和が良く響いていました。

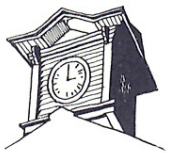
シベリウスの曲は、札響がよく演奏する曲で、定期でも度々登場し、いつも澄んだ音色の演奏を聴かせてくれ、感動を与えてくれたので、とても大好きな曲です。僕は、これからも札響の練習見学会になるべく参加し、そして札響の定期や他の演奏会を聴きに行こうと思っています。



参加した会員・スタッフ (CBブロック) 写真/札響提供
ゲネプロ見学会は、とてもよい企画だと思いますので、これからも行われることを願っています。そして、一人でも多くの札響くらぶの会員の皆さんが練習見学会に参加し、札響の演奏の本番を聴いていただけたらと思っています。(鈴木孝一)

札響物語 52

北電ファミリールコンサート [5]



1978年2月、第62回北電ファミリールコンサートの指揮者として登場したフランス人指揮者ジェローム・カルタンバック氏は1976年の民音指揮者コンクール入賞者、1977年2月に入賞者記念コンサートで札響を初めて指揮し、ラヴェルの「マ・メール・ロア」で名演を聞かせた人である。この演奏が縁で札響の関西公演（1978年3月神戸、京都、大阪）が実現し、更に大阪の「ザ・シンフォニーホール」の落成記念コンサートへの出演にとつながるのである。

この時は北電ファミリールコンサートと有珠山噴火後初の虻田町公演を指揮してもらった。練習は2月6日の10時から始まることになっていて、札幌のホテルにはカルタンバック氏がご自分で入って到着したら電話で連絡をくれることになっていたのだ。5日の午後4時頃、羽田の入国管理事務所から電話が入った「お宅は（財）札幌交響楽団ですか。ジェローム・カルタンバックと言う人を知っていますか。なにをしにきたのですか。明日の練習に間に合わな

いといけないので急いでいる」と本人は言うのですが、ヴィザを持たないで来日したので入国させる訳にはいきません。羽田の施設に留め置きます」と言うものだった。札幌の首席トランペット奏者に就任した杉木峯夫氏（20世紀を代表するトランペットの名手、フランスのモーリス・アンドレに弟子入りしアンドレとトランペット2重奏をレコーディングしたりした）の自宅から「民音指揮者コンクール入賞記念コンサートの演奏がととても素晴らしいので是非札響へ単独で来ていただきたい」とフランス語で直接交渉して実現したものだ。カルタンバックの札幌公演については、札響事務局が契約書を作って送ったが、入国ヴィザをこちらで手配するなど手配しなかった。民音指揮者コンクール関係では民音が全て手配しただけで、本人も気軽に単独来日になったようだ。札響物語23にも登場した札響でデビューした指揮者の一人である。

電話があつた後あわてて羽田の入管へ電話を入れ直しようとしたら今日中に入国出来るのか、と問

い合わせをしたら「法務大臣宛に嘆願書を書き、（財）札幌交響楽団の寄付行為、役員名簿、活動を証明するものなどを今日の千歳発の最終便までに預けて羽田の入管へ届けて下さい」と、とても親切な答えが返って来た。

当時の千歳発羽田行き最終便は午後8時だったので千歳へ30分前までに届けるにはあまり時間が残されていなかった。ともかく大急ぎでばたばたと書類を整えて千歳空港まで持参し、カウンターで事情を話して預けた。ほっとして事務局へ引き上げたら間もなく本人から直接電話が掛かってきた、会話は英語だった。

書類の到着を待たずに出国させてもらったらしい、「どうやったの」と聞いたらECの東京事務所職員に親しい人がいて「請け出してもらいました」とのことだった。翌日、羽田発第一便に乗って練習に間に合った。その後パリにあるラジオ・オーケストラの常任指揮者を務めたりオペラの指揮者としても度々来日したりしている。近年、パリ郊外の農場をスタジオに作り替えた、と聞いていたが

メンデルスゾーンは過小評価？

レコード芸術9月号のインタビューでピアニスト、金子陽子氏のフォルテ・ピアノによるベートーベンのピアノ・ソナタのCDはそのスタジオで録音したとあつ

- フェリックス・メンデルスゾーン
- バルトロディ
- 夏の夜の夢の結婚行進曲
- ヴァイオリン協奏曲
- 短調
- 交響曲第4番イ長調
- イタリア
- 交響曲



メンデルスゾーン (Wikipediaより)

た。金子さんにいろいろご縁がありますね、とメールをしたらスタジオは本当に素晴らしく、音が良くて気持ちが良いのですとのことだった。（竹津宜男）

交響曲第4番。第1楽章。力強い明るさに満ちたで出だして始まる。やがて短調の主題絡んでくる。明るさが強ければ強いほど、それが壊れる恐れが徐々に湧き上がっていく。この曲を聴くとそのような感じを私は受けることがある。不幸の只中に居る恐怖と、幸福を失う恐怖。どちらが恐ろしいのか？ 人が最も孤独を感じる時、それは荒涼とした自然の中に一人である時よりも、大都会で多くの群衆の中に居る時の方ではないだろうか。弦楽四重奏曲第6番へ短調。1947年最愛の姉フアニーを亡くした直後の精神的に不安定な時期の作品だが、やり場の無い激しい想いを一気にぶつけたような作品だ。

メンデルスゾーンの一生は38年という短さを除けば、まさにバラ色に輝いていた人生にも見える。芸術家というものは、貧窮と苦悩の中で無理解な社会と闘いながら偉大なる作品を創り上げていく、という常識(?)から見れば、共感を持ち難くなるかも知れない。だが…どんなに恵まれた環境にあつても悩み苦しむのが人間の性。

て音楽的成功をおさめ、同時に幸せな家庭にも恵まれる。1847年ライブチヒで38歳という若さで多くの人から惜しまれながら亡くなる。

その2か月後、オラトリオ「エリヤ」のウィーンでの自らの指揮を前にして亡くなった。死因は脳卒中と言われているが、姉の死による失意と過労が重なったのかもしれない。彼は同様な天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトより3年長く生きたただだが、音楽的功績は同じように100年分の値はある。そして38年という短い生涯を爽やかな風のごとく駆け抜けていった。

死に際しての最後の言葉。
"Ich bin müde... schnecke-lich müde (疲れた... 酷く疲れた)" (有田 宏)

「札響の若きプリンス」の登場

三上 亮のCD「ツイガーン」

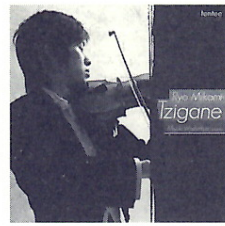
このCDの最大の魅力は何と云っても彼の特長である「美しく澄んだ音」です。しかもヴァイオリンの奏での表情がとても豊かなのは驚きました。

ツイゴネルワイゼン（サラサーテ）・カンタービレ（バガニニー）・詩曲（ショーン）・タイスの瞑想曲（マスネ）・ツイガーン（ラベル）等の名曲が9曲収録されています。（曲の配列も良い）曲ごとに印象がガラッと変わるの繰り返し聴いても決して飽きることはありません。却って胸がわくわくしてくるから不思議です。

過日、東京からの知人とCDを聴きながら道内をドライブしていた際に「これ誰の演奏？」と訊かれたので「札響の3人のコンサートマスターの中で一番若い三上亮君だ。確か33歳のだよ」と答える

と知人はビックリした。世界的な一流の演奏家だと思ひ込んでいたようだ。私は自分が褒められた訳でもないのに調子に乗って、3月の「札幌東京公演」や5月の「創立50周年記念・ヨーロッパツアー」の宣伝もしてしまっただけ。

「前途洋々」とは三上亮にピッタリの言葉だと思う。幾多のコン



コンサートマスター「ツイガーン」のCD
三上亮の演奏

クール（上位入賞）の輝かしい実績を掲げ颯爽と札響のコンサートマスターに就任しソロ活動のほか、テレビではサイトウ・キネンの第1ヴァイオリン奏者として、ラジオではNHK・FMで見事な演奏とトークを披露し、新聞（毎日）・雑誌（音楽の友）で今回の『第79回日本音楽コンクール』ヴァイオリン部門の審査員（最年少？）の一人だった事も知りました。彼の実力が評価されているのです。今年も更なる飛躍が期待されます。（CDは定期演奏会・名曲シリーズ等の際「ギター」ロビーで販売しています。2,800円）

大平まゆみさんのCDは既に3枚出ていますので、後は伊藤亮太郎さんのCDデビューが待たれます。それにしても3人のコンサートは正に札響の宝であり、私たち会員の誇りでもあります。今年も各種演奏会が楽しみです。

(T・S)

11月27日キタラで今シーズン3回目の名曲シリーズ、首席客演指揮者エリシユカさんが指揮するコンサートを聴くことができました。今回のコンサートのタイトルは「踊るスラヴの旅」。スラヴの踊りをテーマにした曲を集めてのコンサートでした。

コンサートの演奏曲目は、チェコのスメタナ作曲、歌劇「売られた花嫁」より3つの舞曲、「ボルカ」、「フリアント」、「道化師の踊り」。ロシアのムソルグスキー作曲、交響詩「禿山の一夜」リムスキー・コルサコフ編曲版。ロシアのリムスキー・コルサコフ作曲、「スペイン奇想曲」。チェコのドヴォルジャーク作曲、「スラヴ舞曲集」より、第1番、第3番、第5番、第10番、第15番。ロシアのボロディン作曲、歌劇「イーゴリ公」より「だったん人の踊り」。

最初に演奏されたスメタナの出だしの弦の音が本当に素晴らしく、最初から引き込まれていきました。「売られた花嫁」は、序曲はよく聴きますが、序曲以外は聴く機会がなかなか無いので、今回エリシユカさんの指揮で聴くことができ、「わが祖国」だけではないスメタナの魅力にふれることができました。

初めて投稿します。10月25日大森潤子さんのヴァイオリンリサイタルを聴いてきました。曲目はイザイの「無伴奏ヴァイオリンソナタ」全6曲。私は過去に何方かのコンサートでイザイのソナタが1曲入った演奏会の経験はありますが、全曲はCDで聴いただけです。従って今回の「全曲リサイタル」は初めての体験でした。

まず、この難曲と思われる曲を難なく弾きこなした大森さんの演奏技術に敬服します。実に見事な演奏でした。

名曲シリーズ Vol.3

「踊るスラヴの旅」を聴いて

リムスキー・コルサコフは、マエストロ・エリシユカが札響に初めて登場したときの「シエラザード」の名演が伝説となっておりますが、私は残念ながらその場に立ち会っていません。非常に残念な思いを持っていました。が、今回の「スペイン奇想曲」の名演を聴いて、改めてそのことを強く思いました。ヴァイオリンソロも素晴らしい。

続く、ドヴォルジャーク、ボロディンとマエストロの作り出す音楽を十分堪能することができました。アンコールは何だろうという予想していたのですが、全く予想がはずれ、チェコのフチーク作曲進行曲「剣士の入場」でした。微笑ましい進行曲で最後を締めくくるところが、ウィットに富んだマエストロらしいと思います。来シーズンの札響年間プログラムが発表されましたが、マエストロの登場は2回。4月22日、23日の定期でドヴォルジャーク作曲の「スターバト・マテル」。10月15日の名曲シリーズで「ラプソディー・イン・ヨーロッパ」と銘打ち、ドヴォルジャーク、チャイコフスキー、エネスコ、シャブリエ、リスト。今から非常に楽しみです。（村上均）

大曲に真正面から対峙し私たちに訴えかける演奏は徒者ではありません。少々のキズ（ミス）など全く気になりません。何とも形容し難い興奮と深い感動を覚えました。

大森 潤子「ヴァイオリンリサイタル」の感想

私は大森さんが札響に入団して間もない頃の「ロビーコンサート」で一気になを奪われた一人です。他の団員さんには失礼ながら音が全く違うのです。私は素人で

上がって聞こえるのです。その後モーツアルトのコンチェルト（北広島）や最近では北星学園チャペルにおけるバッハ「無伴奏ヴァイオリン演奏会」（3年

すので技術的なことは全く判りませんが、音がつややかと言うか光り輝いていると言うか、とにかく何人で弾いていても大森さんの音は別格で弱音でもくつきりと浮き

上がって聞こえるのです。その後モーツアルトのコンチェルト（北広島）や最近では北星学園チャペルにおけるバッハ「無伴奏ヴァイオリン演奏会」（3年

間もない頃の「ロビーコンサート」で一気になを奪われた一人です。他の団員さんには失礼ながら音が全く違うのです。私は素人で

上がって聞こえるのです。その後モーツアルトのコンチェルト（北広島）や最近では北星学園チャペルにおけるバッハ「無伴奏ヴァイオリン演奏会」（3年

間）・昨年9月に結成した「カメラータ札幌」のデビュー演奏会などが目立ちます。

私は大森さんは他のオーケストラへ行けば立派にコンサートマスターが務まる方だと思っています。このような方が第2ヴァイオリンの首席にいらっしやるのですから私たちは幸せです。

これからも道内で大森さんのコンサートがあれば私は何処へでも出掛けます。今後一層の活躍を期待して家路に着きました。

（札幌市西区在住・紀重方）

「JOF C in 名古屋10」旅行記

9月4日早朝7時過ぎに新千歳空港に5名のスタッフ・会員の方々が集合しました。しかし、出発20分前までにしなければならぬ搭乗手続に遅れて係員に頼み込み、行列に割り込んでの手続となってしまうが、ぎりぎりで搭乗してそれぞれの席に着きました。

航路は、仙台や東京方面へは太平洋沿岸上空でしたが、名古屋方面へは若狭湾上空の太平洋から函館、津軽半島、秋田上空から日本海沿岸上空へ出て、新潟から長野岐阜上空を経て再び太平洋へ出るほぼ一直線のルートです。途中、長野県松本上空あたりでさしかかったあたりから左前方に、前日



上/新千歳から中部国際への航路(ANAホームページより)、下/ANAの機内から見た富士山(9/4)

の天候が幸いして空気が澄んでいて富士山がはっきり見え、機内でも案内されていました。約1時間のフライトで中部国際空港に到着、帰りのお土産を物色して味噌煮込みうどんを空港で買うことに決め、名鉄中部国際空港駅から名古屋方面への特急「ミユースカイ」に乗車、30分ほどで名鉄名古屋駅に到着しました。今日のスケジュールは、

- 13:00 第4回JOF C総会
- 16:00 名フィル第372回定期演奏会
- 18:30 懇親会(名古屋観光ホテル)
- 21:00 二次会

名鉄名古屋駅に降り立ち、まずは腹ごしらえと名古屋名物きしめんを堪能、宿泊先の名古屋観光ホテルに向かいましたが、地下街が複雑で方向感覚を失い、いったん地上へ、しかし余りの日差しの強さにより地上を歩くことを諦め、また地下にもぐって路を尋ねながら地下街を歩き、ホテルへの一番近いと思われる出口(本当はもう一つ先に出口がありました。)から再び地上へ出ました。



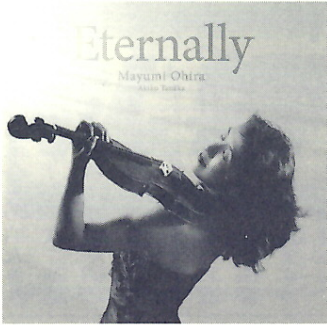
上/札幌くらぶの参加者が宿泊した名古屋観光ホテル、中/早朝の熱田神宮(西川、佐々木、鈴木、村山の4名が早朝参拝会しました。下/中部国際空港と名古屋駅の往復に利用した名鉄特急「ミユースカイ」、乗車には特急券が必要。

と地下へ出ました。地上では、東京、大阪に次ぐ大都市で名古屋駅周辺にもかかわらず人通りがあまりありません。一行5名は、そんな話をしながら、強い日差しを避け日陰を選んで歩きながら12時少し前に名古屋観光ホテルに入りました。チェックインは3時からと聞いていて荷物を預けるだけと思っていたら、部屋に入れますということ、それと接客が大変よく、尋ねてみると名古屋でも1、2の老舗ホテルであると、宿泊料がちょっと高いなと思っていたのが、なんとなく納得、こういうときでないかと宿泊できないホテルで、担当された名フィル・ファンクラブの山田さんに感謝です。

総会会場のNHK放送センターへ向かうタクシーの運転手さんに「今日は暑いね」話しかけたら、「38℃を超えそう、今日の最高気温1位から3位は愛知県になりそう」との話、札幌では経験のできない日差しの強さと暑さ、人があまり歩いていないのが名古屋の人の知恵とわかりました。これだけ暑いと少し歩いただけでも汗が止まらなくなるはずなのに、その日は意外と湿度が低く、それほど汗はかきませんでした。

NHK放送センターでは、別日程で名古屋入りしていたスタッフらと合流、それから総会、演奏会、懇親会と出席、二次会はホテル近くの名古屋名物の手羽先の山ちゃん納屋橋店、そこで食べた手羽先の唐揚げの味は甘辛くピリツとしていて、いくらでも食べられ痛み付きになりそうです。5日は、自由行動。早朝熱田神宮を参拝したり、あいちトリエンナーレ2010の見学、名古屋ドームに巨人中日戦観戦にと、それぞれ出かけましたが、前日ほどではないものの猛暑の名古屋。あいちトリエンナーレ2010の見学に出かけた私達、名古屋美術館会場は建物の中で冷房が効いていたのでほとんどの展示物(前衛的な作品が多く、作者の意図が余り理解できませんでしたが)を見てきましたが、長者町会場は展示場が点在しており、暑さに耐えきれず2、3か所で早々に切り上げ、地下鉄で名古屋駅まで行き、駅の地下街に潜り込みました。地下街では味噌カツを肴に冷たいビールを一杯飲み、生きた心地にしばらく浸りました。また、中日・巨人戦の観戦にナゴヤドームに出かけたグループは、ドーム近くの駅まで行ったところでチケット完売を知り、諦め切れずも止む無く引き返したとのこと。昼食は回転ずしだったのですが、その日回転ずしが初体験だったと目を輝かせながらお茶の入れ方がわかったと話された方もいて、色々なことを体験することができた名古屋旅行でした。夕方、中部国際空港に集合、またも20分前に早く搭乗手続をするよう一行全員の名前が放送されるハプニングがありました。無事新千歳空港に到着、猛暑を体験した旅を終えました。2011年は、金沢市での開催することが決まりました。新千歳・小松の直行便は時刻の関係で使えそうもないので、どんな交通機関がよいのかこれから研究するとして、金沢で2泊位するのでもいいかな。

(武藤義典)



大平まゆみさん3枚目のCD「Eternally」

英語で「永遠に」、永久に」という意味でした。(華)

大平まゆみさんの新しいCDが発売されました。その名もEternally! いろんな意味だったか久しぶりに英和辞典で調べてみよう...え? 関係ないからこの先はもう読むの止めた? そんなことを考えて次の記事に目を移そうとしたそのアナタ、読むの止めないで最後まで付き合ってください。そうしないとEternallyの良さを伝えるというMissionがImpossibleに...!

Eternally な CD

~Eternally ってスゴイ!~

いてバイオリンが口をあけて歌っているのかと錯覚してしまう音色クラシック音楽だけかと思いきや、日本の唱歌のメロディーにPOP... Dreams Come TrueのLove Love Loveを大平さんの演奏で聞けるなんて誰が想像したでしょう? CDを聞きながらソファに座っていたらCDが終わってしまい、再度リモコンでプレイボタンを押す私。終わってはプレイボタンを押して、終わってはプレイボタンを押して...を数え切れないほど繰り返して、ようやくリピートボタンを押せばいいことに気づき、1日中聞いていました。文字通りEternallyな時間を堪能しました。最近仕事で神経張り詰めちゃって、のんびりしたいなあ、気持ちの休まる場所がほしいなあ、とお考

スタッフの活動報告 (平成22年10月~12月)

●JOF C署名活動

10月25日(月)
担当/武藤事務局長
JOF Cとしても「もっと文化を! キャンペーン事務局」の署名募集運動に協賛し、署名運動に協力することとし、メール&HPで会員各クラブに署名運動に参加を呼びかける。

●会報「札響くらぶ」第52号発行
10月30日(土)
担当/木村由華
スタッフ7名が取材、執筆等編集作業に参加、12ページ800部を発行する。

●会報「札響くらぶ」第52号発行
11月2日(火) 午後3時~6時
コンサートホール第2会議室
担当/武藤事務局長他7名参加
会員、札響、寄贈合せて710部を送る。

●第6回札響くらぶ運営会議
11月2日(火) 午後6~8時
コンサートホール第2会議室
担当/武藤事務局長、9名参加
札響くらぶコンサート実行委員会

●第7回札響くらぶ運営会議
12月2日(木) 午後6時00分~7時40分
札幌コンサートホール1階第2会議室
担当/武藤事務局長、11名参加
クリスマスパーティの開催、会報「札響くらぶ」第53号掲載記事について協議する。

●第7回札響くらぶ運営会議

12月2日(木) 午後6時00分~7時40分
札幌コンサートホール1階第2会議室
担当/武藤事務局長、11名参加
クリスマスパーティの開催、会報「札響くらぶ」第53号掲載記事について協議する。

●札響楽員出演演奏会のお知らせ
11月20日(土)
担当/武藤事務局長
「文屋治実チエロ・リサイタルNo.25 (11月24日)、弦楽四重奏による「レクイエム」(12月2日)、札幌メンバーによる「ファゴットと弦楽アンサンブル」(11月26日)」を会員MLでお知らせする。

●札響くらぶコンサート名義後援申請
11月25日(木)
担当/武藤事務局長
北海道・北海道教育委員会、札幌市・札幌市教育委員会、財団法人北海道文化財団、株式会社北海道新聞社、HBC (北海道放送株式会社)、STV (札幌テレビ放送株式会社)、HTB (北海道テレビ放送株式会社)、UHB (北海道文化放送株式会社)、TVH (株式会社テレビ北海道) に名義後援の申請をする。

●札響くらぶコンサート助成金申請
12月6日(月)
担当/武藤事務局長
ニトリ北海道応援基金、財団法人北海道文化財団舞台創造支援事業(自主事業) に助成金交付申請書を提出する。

●第1回札響くらぶコンサート実行委員会
12月6日(月) 午後6時30分~8時40分

エルブラザ4階第3研修室
担当/西川副会長、11名参加
収支見積、業務分担について協議する。

●札響くらぶコンサート名義後援確定

12月15日(水)
担当/武藤事務局長
北海道・北海道教育委員会、札幌市・札幌市教育委員会、財団法人北海道文化財団、株式会社北海道新聞社、HBC (北海道放送株式会社)、STV (札幌テレビ放送株式会社)、HTB (北海道テレビ放送株式会社)、TVH (株式会社テレビ北海道) より名義後援承認の連絡を受ける。

●札響楽員出演演奏会のお知らせ
12月20日(月)
担当/武藤事務局長
時計台ニューイヤークンサート2011、妙なるバロックの調べ・新春の慶び、(1月14日)を会員MLでお知らせする。

●札響創立50周年記念ヨーロッパ公演のお知らせ
12月24日(金)
担当/武藤事務局長
札響創立50周年記念ヨーロッパ公演 (5月22日、27日)の開催地、演奏曲等詳細を会員MLでお知らせする。

●第1回札響くらぶコンサート実行委員会
12月6日(月) 午後6時30分~8時40分

●第1回札響くらぶコンサート実行委員会
12月6日(月) 午後6時30分~8時40分

平成22年度の年会費の納入されましたでしょうか。今一度ご確認ください。1月25日現在、未納となっている会員に納付書をお送りいたしました。至急ご確認のうえ、未納の場合は2月20日までにお近くの郵便局から郵便振替で納入くださいますようお願いいたします。

平成22年度の年会費の納入を確認してください

年会費は、札幌くらぶの運営経費と楽譜支援金にあてられております。また、年会費納入の際に、任意での追加楽譜支援金も併せて募集しておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

年会費の納入方法は、金融機関の預金口座からの自動振替が便利ですのでぜひご利用ください。手続きご希望の方は、電話、ファックス(011・563・6460)、メールで、会員番号、お名前を申し出てお申込みください。口座振替依頼書(記入の仕方添付)をお送りいたします。

上記のほかに、定期演奏会、名曲シリーズの会場の「札幌くらぶサービスカウンター」で、現金でのお支払いも受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。(担当:事務局長 武藤義典)

札幌くらぶML登録アドレス募集

札幌くらぶ会員専用メールマガジン「ML」と略されていることが多い。以下省略)へのメールアドレスの登録を募集しています。

MLは、札幌くらぶの「おしゃべりROOM」などの電子掲示板のようなWeb形式と違い、メールアドレスを登録しないとうりになっていて、迷惑メールなどが入り込むことのないように、安全なメールの利用方法です。安心してご利用ください。

札幌くらぶでは、このMLを会員同士の情報交換、交流の場として多くの会員の方々に活発に利用いただきたいと願っています。

MLに、新たにメールアドレスを登録される会員を募集いたしますので、次のメールアドレスに「MLに登録希望」と題名に入力し、通信欄に会員番号、氏名を入力して送信してください。

受信確認後、MLに登録し、利用方法を返信いたします。

多くの会員の方々が登録されるよう、ぜひご登録ください。

info@akkyoclub.net

意見・感想をお寄せ下さい

交流会や札幌演奏会の感想、クラシック音楽に関する事など特に内容は問いません。この会報に関するご意見・ご要望など会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。

投稿は、ハガキ、封書又はEメールで、住所・氏名・会員番号(以上必須事項)・電話番号等連絡先を書き、「札幌くらぶ事務局」宛お送りください。

匿名希望の方は、「匿名希望」又は「ペンネーム」をお書きください。(あて先は1ページ目のタイトル欄にあります。)

また、「第9回札幌くらぶコンサート」札幌と遊ぼう」についてのご意見もお寄せください。

投稿の期限はありませんが、2月28日までに投稿して下さった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。

第536回札幌定期演奏会 練習見学会開催のお知らせ

2月24日(木)
キタラ大ホール

今年度2回目の練習見学会を次のとおり開催いたしますのでお知らせいたします。

日時:平成23年2月24日(木)
10時45分~13時
場所:キタラ大ホール
集合時間:10時30分厳守
集合場所:札幌事務局前

参加申し込みは、 FAX・無料ハガキで

参加申込は、FAX又は同封の申込ハガキ(切手不要)にて、2月20日(日)までにお申し込みください。



527定演練習見学会 (2010.3.18)

(担当:事務局長 武藤義典)

ください。

武満、シヨスタコフ5番は、 ヨーロッパ公演でも演奏

第536回札幌定期演奏会の概要は次のとおりです。

指揮/尾高 忠明(音楽監督)
チェロ/ミクローシュ・ペレリニ

武満 徹/ハウ・スロー・ザ・ウィンド・オーケストラの

ための(1991)
シヨスタコーヴィチ/チェロ協奏曲第2番ト短調op.136
シヨスタコーヴィチ/交響曲第5番ト短調op.47「革命」

5月22日から27日までの日程で行われる札幌創立50周年記念のヨーロッパ公演でも、「武満 徹/ハウ・スロー・ザ・ウィンド・オーケストラのための(1991)」は全公演で、「シヨスタコーヴィチ/交響曲第5番ト短調op.47」はロンドン公演とミラノ公演で演奏されます。

編集後記

◆今号からレイアウトを一新する縦書きに変更することになりました。横書きではできない自由なレイアウトが実現できることが大きなメリットですが、横書きルールに慣れていたため、縦書きルールにとまどいながらも、なんとかレイアウト作業を終了、脱稿にこぎつけました。

今号のレイアウトにつきまして、会員・スタッフの皆様から感想・ご意見をいただき、次号に生かしていきたいと思っております。(武藤)

◆札幌の来シーズンプログラムの発表されました。ヨーロッパ公演、ベートーヴェン・ツィクルスと話題が多い1年です。(村上)

◆今年は無病息災を祈願しに初詣に行ってきました。健康が一番!(華)

◆今年いったコンサート37回、月平均約3回です。(み)

◆札幌地方公演(室蘭・旭川・帯広・釧路・弟子屈・網走・清水)を体験。団員の苦勞の一端に触れた思いでした。(里)